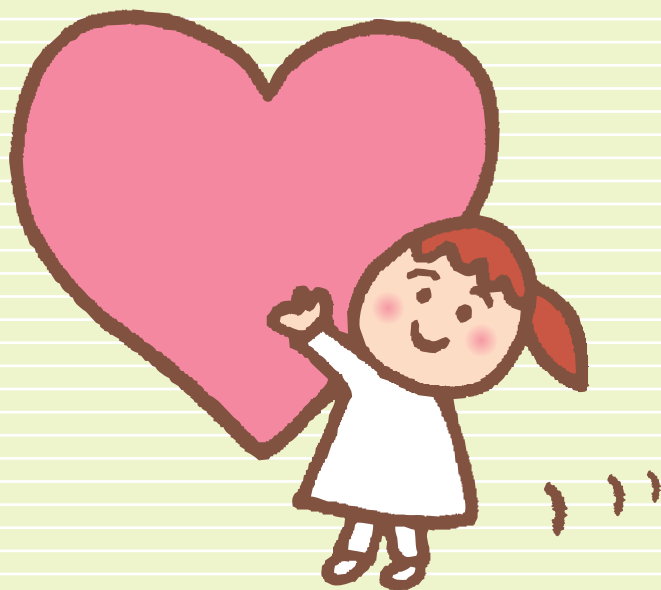


HIV/AIDS

出前研修ハンドブック

～最新の知識と安心をお届けます～



沖縄県保健医療部感染症対策課 予防班

はじめに

2018 年度から沖縄県のエイズ対策強化事業が開始され、感染症診療コーディネーターが新しく配置されました。HIV/AIDS を取り巻く課題に対して行政、エイズ治療拠点病院、関係機関等と連携しながら活動しています。

このハンドブックでは、地域の中で HIV/AIDS への理解を含め、受け入れを促進するための出前研修の活用方法や研修報告をまとめています。

多くの方と HIV/AIDS について考える時間を持てることを期待しています。

感染対策の
基本とは？

HIVと
AIDSの
違いは？

目次

はじめに	2
第1部 出前研修ってなに？	4
第2部 出前研修の流れ	6
第3部 これまでの実績報告	8
出前研修後のアンケート結果	9
研修用動画を YouTube で視聴	10
実際に出前研修を受けた方々の声	11
出前研修の中でよくある質問	12
第4部 出前研修の講師たちの言葉	15
これから出前研修を考えている方々へ	21

HIVの
治療って？

感染したら
どうなるの？

第1部 出前研修ってなに？

HIV/AIDSに関する基礎知識、感染対策、陽性者へのケアについて研修を行うことにより、医療機関や施設等における HIV陽性者を受け入れる際の不安を軽減し、受け皿の数を増やすことを目的としています。

より多くの方々に研修を受けてもらう為に、HIV診療や支援に関わるエイズ拠点病院等で働くスタッフが病院や施設に出向いて研修を行います。

沖縄県の事業費で実施しており、「無料」で受講できます。

●出前研修 実施要項

目的 HIV 感染症に対する基礎知識、感染対策、陽性者へのケアについて理解することで、HIV 感染者の受け入れに対する不安を軽減すること

実地期間 年度毎
講師の調整や研修準備が必要な為、希望する日程の 2 か月前にはご連絡ください

対象 沖縄県内で研修を希望する以下の機関、事業所に勤務されている方（要相談）

場所 病院、クリニック、保健所、訪問看護ステーション、透析施設、介護福祉施設、居宅サービス事業所、障害者福祉施設、障害者サービス事業所

担当者が各施設へ伺います web 研修も相談可能です

時間 60～90 分（要相談）

講師 エイズ治療拠点病院等のスタッフ

相談先 琉球大学病院 感染症診療コーディネーター 098-895-1144

内 容 研修内容は、希望内容や施設の状況などに合わせてコーディネーターと相談しながら調整します

HIVの医療体制	診療体制、チーム医療、拠点病院・協力病院の役割
沖縄県の現状について	沖縄県のHIV患者について現状と課題、事例
HIV感染症について	基礎知識、HIV感染症の診断・治療、他感染症の理解
HIV検査と相談	検査内容、検査前後の対応・相談
HIV感染症と看護	セルフマネジメント支援(患者指導)、在宅療養支援
抗HIV薬と服薬支援	抗HIV薬について、服薬支援
HIVと社会資源	利用できる社会福祉制度、制度利用の流れ
HIVとカウンセリング	HIV陽性者の心理状況、カウンセリング
HIVと価値・倫理	人権問題、差別・偏見と啓発活動、スティグマ
感染予防と曝露後対応	スタンダードプリコーション、二次感染予防
HIVと妊娠出産	母子感染予防、拳児希望感染者への対応
HIV予防薬配置事業について	曝露後対応マニュアル、予防薬配置医療機関

費 用 無 料

研修の出前



第2部 出前研修の流れ

① 電話で研修依頼の連絡があり 訪問日を決める

依頼のあった病院や施設へ訪問し、対面で話す機会を設けています。

(直接会えない場合はオンラインでも対応)



② 依頼先へ訪問し、具体的な日程 や研修内容について相談

まずは、困っていることや不安に感じていることなどを話してもらっています。



③ 日程、講師を調整し研修を開催

HIV 診療チームや HIV 陽性者の受け入れ実績のあるスタッフに講師を依頼します。

研修終了後も継続した研修会の開催や不安などが解消されるまでコーディネーターが訪問します。



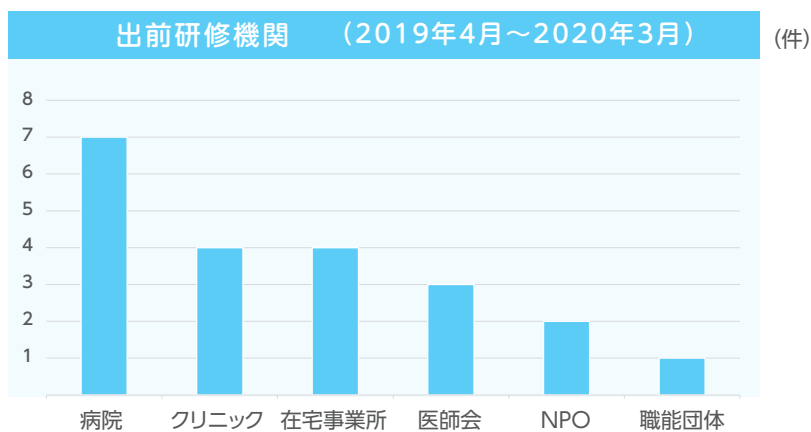
病院や施設の状況に合わせて日程についてもなるべく希望に合わせて
れるよう調整しています。

講師に関しても医師、看護師からカウンセラーやソーシャルワーカー
など研修内容によって選定しています。



第3部 これまでの実績報告

- ・2019年度から事業として出前研修を開始し、2019年度は21の関係機関で研修を実施しました。
- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染症流行の影響により出向いての研修が困難となった為、オンラインでの研修を実施しました。
- ・参加者は、医療従事者を中心に児童から高齢分野まで幅広い支援領域の方々が受講しました。



第3部 出前研修後のアンケート結果

- ・ 今回の研修で、HIV 診療・感染予防対策等の知識は習得できましたか。

そう思う、ややそう思う…約 90%

- ・ 他の感染症と同様に HIV 感染症も標準予防策で対応できると思いますか。

そう思う、ややそう思う…約 80%

- ・ HIV 陽性者の対応を求められた場合、今回の研修内容の知識を基に対応できますか。

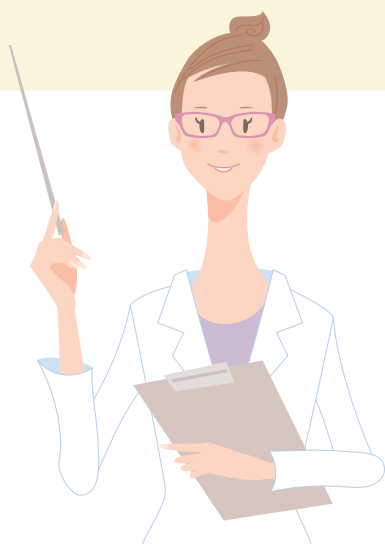
そう思う、ややそう思う…約 60%

- ・ 今回のような感染対策、HIV 関連の研修会や勉強会が今後開催される場合、受講したいと思いますか。

そう思う、ややそう思う…約 80%

- ・ 地域の中で HIV 等に関する感染症（対策）について学ぶ機会が増えることで HIV に対するイメージが変わると思いますか。

そう思う、ややそう思う…約 90%



第3部 研修用動画をYouTubeで視聴



琉球大学HIV診療チーム



HIV/ エイズについて考える ～正しい知識と理解を持つために～
<https://www.youtube.com/watch?v=RjWPhsTlMkg&feature=emb>



さいごに

- HIV/AIDSに対する自分自身の反応を知っておくことが大切
- 正しい知識をアップデートすることで不安の軽減につながる
- 感染対策は、HIVの有無に関わらずに実践することが必要




引用元: <https://ptokyo.org>

HIV/AIDS に関する Web 研修が無料で受けられます!
<https://www.youtube.com/watch?v=MjrJbilSx4>




琉球大学病院はHIV/エイズについて
WEBで学ぶ機会を準備



研修会を受けることで、HIV は特別な疾患ではなく、一つの病気であるということを改めて感じるようになりました。また、医師や看護師だけでなくコメディカルなど他職種とも共有できる時間となります。


拠点病院やコーディネーターとの連携も密なものとなり、HIV検査を受け方やHIV陽性者に対する治療や支援についても関心が高くなりました。

アドベンチストメディカルセンター 看護師 屋良郁子




出張研修を受けて、事務職員や看護師と HIV に対する知識や対応を共有することが出来ました。処置に対する看護師の疑問については、実際の治療に当たる看護師も一緒にオンライン説明も行って頂き安心できました。当初は検査導入に反対意見もありました。しかし、検査の件数が増え安心する患者さんに多く接することで、理解の度合いが深まっていきました。HIV に対する職員の理解が深まり大変に感謝しています。

クリニックおもろまち 院長 宮島英一



HIV 陽性者、AIDS 発症者の方の心理面について深く考えたことがなかったように思います。もし今後看護することになった時には今日のことを思い出しながら、安心して看護できるように思います。

那覇市内医療機関 看護師



今回の研修で力強い言葉で HIV 感染症の対応について聞くことができとても良かったです。

また、現場の職員全員が共感しあって理解を深めないと、心の溝は埋まらないように感じました。そのために、とても有意義で必要性の高い時間だったと心底感じています

高齢者施設 介護士

Q

1

HIV の薬を飲み続ければ AIDS を発症することはないのですか。

A

はい、薬を適切に飲んでいけばありません。抗 HIV 薬（HIV の増殖を抑える薬）を服薬することで体内のウイルスは血液検査で検出限界未満まで抑え込めます。その為、飲み忘れや飲み合わせなど服薬管理が大切となります。

Q

2

感染対策はどこまで実施すればいいですか。

A

標準予防策（スタンダードプリコーション）で十分です。

B 型、C 型肝炎に対する感染予防マニュアルがあれば同等の対策で問題ありません。

Q

3

HIV陽性者の血液に曝露した場合、どのような感染予防対策がありますか。

A

基本的には HIV 感染予防薬を内服します。

詳細は、「沖縄県血液等曝露後 HIV 感染予防薬整備事業実施要領」を確認ください。

また、HIV 陽性者だけでなく、感染しているか不明の方から曝露した場合も感染予防対策を徹底することが重要です。

沖縄県血液等曝露後
HIV 感染予防薬整備
事業実施要領

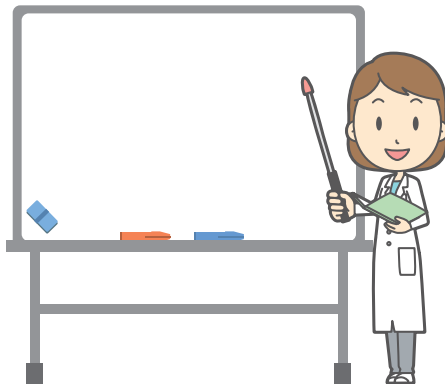


Q 4 **沖縄県内で HIV 陽性者を受け入れている病院や施設はありますか。**

A はい、あります。HIV 陽性者の年齢層は 30 代から 50 代が多い為、普通に日常生活を送っている方がほとんどですが、療養型の病院や高齢者・障害者施設等で生活している方もいます。
医療の進歩により HIV 陽性者も健常者と同じように寿命を全うすることができるため、医療や福祉の受け入れ先の拡充が増々重要となります。

Q 5 **職員間でどのように HIV 陽性者の方の情報を管理すべきですか。**

A 個人情報の取り扱いは他の方と同じで構いません。関わる職員間で必要な情報が必要な時に共有できていれば問題ありません。
しかし、HIV 陽性者の中には病名を周囲(家族や友人、職場等)に告知していない方もいますので配慮が必要な場合もあります。





HIV 陽性告知後の対応や治療中のメンタルケアに不安があります。専門的な知識がなくても対応は可能ですか。

A HIV の新規報告は、民間の医療機関からの報告数が一番多く、一般的な診療科で告知が行われている場合も少なくありません。告知後の不安・動揺に対しては、「お気持ちはいかがですか？」など本人の不安を受け止めることが大切です。また「どのような不安が一番強いですか？」など、本人がどこに不安を感じているかをお聞きし、「治療を受けることで体調は良くなります。元の生活と同じように過ごせる場合がほとんどですよ」などとお伝えし、安心感を持ってもらうと良いでしょう。また、医療従事者は一人で抱えず、適切な回答ができるコメディカルへ繋ぐことや、カンファレンスなどで相談することも重要です。また、沖縄県では派遣カウンセリング制度（沖縄県公認心理師協会からカウンセラーを派遣する制度）も利用できる為、エイズ拠点病院や県担当課等へ相談してください。

- **エイズ治療拠点病院**

琉球大学病院

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

沖縄県立中部病院

- **県担当課**

沖縄県 保健医療部地域保健課

第4部 出前研修の講師たちの言葉

研修会で HIV 診療の現場の医師から具体的な HIV に関するデータや治療の話をお聞きだけでも安心感を得られます。

私の病院では、HIV 陽性者の方だからといって特別視することはありません。これは、感染対策をしないということではなく、HIV 陽性に関わらず一人ひとりに必要な対策やケアをしているということです。

出前研修を受けることによって感染対策などの学びにもなるのでぜひ利用してみてください。

とうま内科 看護師 我喜屋明美

HIV/AIDS についてどのくらい知っていますか？

スタッフの皆さんそれぞれが基礎知識も情報もお持ちだと思います。しかし、働くスタッフ全てが同じ知識や情報をもっているとは限りません。出前研修は、HIV/AIDS についての最新の正しい情報が得られる場であり、患者様を受け入れる際に生じる不安や様々な思いをスタッフが共有できる場でもあります。HIV 診療においては行政、拠点病院、関係施設等との連携も大切になってきますので、研修を通して地域で支えるネットワークも広げることができます。患者様への支援だけでなく、沖縄でも安心して診療に臨める体制作りのサポートを行っていきます。

一般社団法人沖縄県公認心理師協会 理事 早田真吾



第4部 出前研修の講師たちの言葉

これまで、HIV 陽性者の方と関わった経験がなく、漠然とした不安を抱えている方も多いと思います。出前研修では、皆さまの疑問や不安を解消するお手伝いをさせて頂いています。参加した皆さまが、HIV/AIDS に関する正しい知識を身につけ、それぞれの立ち位置で出来る陽性者支援を考えるきっかけになれば幸いです。

南部医療センター・こども医療センター
看護師 向井三穂子

HIV 陽性者の治療やケアに従事したり陽性者と共に働いたりする時の、何となく不安な気持ちの払拭には知識のアップデートがたいへん有効ですから、是非本研修をご活用下さい。受講されると、治療をしている陽性者は安心であることが理解できると思います。陽性者との関わりを積み重ねていくと、彼らも地域で暮らし、かけがえのない人がいて、何かを楽しんだり悩んだりする、私たちと同じ生活者なのだと実感したり、何より皆様が力まずに専門的力を発揮できると思います。

琉球大学病院 ソーシャルワーカー 石郷岡美穂

HIV 陽性者への対応と聞いて、「え？私が看るの？嫌だ」と思う人、逆に「看ますよ！」と受け入れをスムーズに思う人もいます。どちらの気持ちでも良いです。分からないこと、分かっているつもりだったけど、改めて分かる知識（情報）をこの出前研修で習得して欲しい！ HIV 陽性者に限らない、あなたに関わる患者・利用者へのケアや支援の基礎が学べる出前研修になっていると思います。ぜひ、ご活用ください。

琉球大学病院 看護師 宮城京子

「ありがとう」の対義語は「あたりまえ」、あたりまえに過ごせる日々は奇跡の連続です。HIV 陽性者は、HIV に感染していても変わりなく生活できるのに、色々生きにくい世界で生きています。出前研修を受けて HIV について知ること、HIV 陽性者と関わるのが「あたりまえ」になり一緒に患者を支援していただけるようになる医療従事者が一人でも増えることを願っています。

琉球大学病院 看護師 前田サオリ



第4部 出前研修の講師たちの言葉

HIV/AIDS に関して最後に腰を下ろして学んだのはいつでしょうか？
その答えが「6ヶ月以上前」という全ての方に出張研修受講を強くお勧めします。

“百聞は一見に如かず”です。

琉球大学病院 HIV 診療医師 仲村秀太

人は誰でも何らかの病気を抱えると不安を感じることでしょう。その不安に対し、家族や友人、仲間、同僚など身近な人の支えが、病気と向き合うためのとても大きな原動力となります。HIV を抱えた人々も同様です。ただ、彼らは家族や友人に病気を打ち明けられない場合がほとんどです。そこで、あなたがこの研修を受けることで、彼らを温かく見守る一員になっていただけたらとても幸いです。HIV の診療についても、是非最新の情報を得ていただけたらと思います！

琉球大学病院 カウンセラー 大城市子 辺土名優美子

本研修を受けることで、適切な感染対策や、HIV 検査を行うべきタイミング、検査の流れ等が具体的に分かる内容になっています。HIV についての正しい知識をアップデートし、それぞれの立ち位置から、HIV 陽性者への寄り添い方を一緒に考えていきましょう。

琉球大学病院 臨床検査技師 饒平名聖

HIV 感染症は、薬の進歩により、薬をきっちり飲むことで、健康な生活を送ることができます。しかし、生涯にわたり同じ時間に毎日薬を飲み続けることは患者さんにとって大変なことで、治療を続けていくために支援が必要になることがあります。そんな時に、患者さんの近くに支援して下さる方が1人でも多くいれば心強いです。抗 HIV 薬は、関わるのが少なく難しい印象を持たれるかもしれませんが、現在はとてもシンプルで、わかりやすくなっています。研修を通して、最新の治療薬の情報や服薬支援の方法などについて一緒に学べたら幸いです。

琉球大学病院 薬剤師 諸見牧子 上原 仁

患者さん方にとって病院がどんな場所であるか、それは通院が必要な陽性者の方々にとっては本当に重大な問題です。

どんな些細なことでも、どんなにややこしいことでも、陽性者の方からの相談や悩みに乗ることができる雰囲気作りを意識しています。

そして、その方らしい生き方を長くサポートしていける「safe place」を提供していきたいと思います。そうした場が陽性者の方々にとって増えるように、皆さんと協力していきたいですね。

沖縄県立中部病院 HIV 診療医師 椎木創一

第4部 出前研修の講師たちの言葉

出前講座で学ぶ機会を得られた事で、HIV 陽性者のケアも他の疾患のケアと同様だと感じてもらえるかと思います。HIV/AIDS 感染症で、命を落としてしまう方は、激減していますが、残念な事に、HIV/AIDS の間違ったイメージが伝わってしまっている事で、精神的に追い込まれて、精神的な病を発症したり、命を落としてしまう方がいます。出前講座で学んだ方おひとり、おひとりが 1 人でも多くの人に伝えてもらう事で、陽性者の方、支える家族の方が療養しやすい世の中になる事を願っています。

沖縄県立中部病院 看護師 赤嶺千賀子 伊波百合恵

私たちは誰でも先入観や偏見を持っています。
そんなつもりはなくても、些細な一言で患者さんに悲しい思いをさせることがあるかもしれません。
大切なのはそのことに気づくこと。支援者の“当たり前”をアップデートすること。
どうぞ出前研修をご活用ください。

沖縄県立中部病院 公認心理師 柳生佳代子



第4部 これから出前研修を考えている方々へ

この原稿を書いている現在、新型コロナウイルスが猛威を振るっております。

多くのコメントーターがテレビなどで「コロナ感染者に差別・偏見を持つことはよくない」と声高に叫んでいます。このコメントーターの主張する総論は多くの人が賛成ですが、実際に自分の子供の通う保育園で陽性者が出ても冷静に対応できるかと疑問を持たざるを得ません。実態のよく分からないウイルスを恐れることは、ある意味、自己防衛の意識から無理のないことだと思います。

さて、この出前研修の目的は、同じウイルスである HIV 陽性者のケアに必要な知識を伝えることです。正しい知識の獲得は「恐れとそれから生じる差別の解消」に役立ちます。正しい知識を与えずに、道徳や倫理を説いても、人の感情はなかなか納得しないと思います。納得のないまま、「職業的義務から仕事に従事させること」はある意味「苦痛」しかないと思います。実は、HIV 患者の診療経験が 400 例を超す私も、初期は診療が「苦痛」でした。

当時は治療薬もなく、病態もよくわかっておりませんでした。今は、とても良く効く薬があります。そのため拠点病院から紹介する患者は、ウイルスがコントロールされているため、恐れる理由はないのです。

私たち診療チームはこれまで多くの出前研修を行い、たくさんの患者を施設に紹介してきました。ウイルス（患者）を恐れていた職員は、魔物でない「普通の人」をみて拍子抜けする場を何度も見てきました。そしてチャーミングな性格で施設に溶け込んでいく姿を見る経験を何度もしております。

正しい知識の取得、それは HIV にとどまらず感染症全般に必要です。私たちはそれをお届けしたいと思います。

琉球大学病院
健山正男

編集後記

これまでの出前研修は単に研修を企画開催し、学ぶ場を提供するというだけではありませんでした。多くの人との“つながり”をつくる機会となり、私自身も皆さんとの関りのなかでたくさんのことを学びました。

Withコロナとも言われるこの時代、排除や見て見ぬふりをする選択が本当に最良なのか、自問自答する場面も増えました。

歴史的に見ても人間と感染症の関係は古くからあります。HIVという疾患もまた歴史的な背景があり、HIVを学ぶこと知することはこれからの感染症を考えるうえでも重要なことだと感じます。

出前研修ではHIVの最新の知識を得ると同時に感染症との向き合い方や職業倫理について考える時間にもなります。

その第一歩としてこのハンドブックを活用し、つながりの場をつくり、広げてもらいたいと思います。

最後に、感染症診療コーディネーターの活動を支えてくださっている皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。

感染症診療コーディネーター 金崎慶大

編集協力

琉球大学病院

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

沖縄県立中部病院

一般社団法人沖縄県公認心理師協会

アドベンチストメディカルセンター

とうま内科

クリニックおもろまち

HIV/AIDS

出前研修ハンドブック

～最新の知識と安心をお届けます～

編集・発行：沖縄県保健医療部感染症対策課 予防班
エイズ対策強化事業

HIV/AIDS

出前研修ハンドブック

～最新の知識と安心をお届けます～

